

第2 茨城県の交通事故

1 県内の交通事故発生状況

(1) 概要

発生件数は平成12年をピークに平成13年から5年連続で減少し、負傷者数も減少した。死者数は278人と前年より12人増加したが、第7次茨城県交通安全計画に定めた抑止目標(平成17年までに300人以下)を3年連続で達成した。

しかしながら、本県の死者数の全国順位はワースト第6位と、依然として死亡事故多発県に位置している。

(2) 第1当事者の年齢別発生状況(P26参照)

「20歳代」は、発生件数(5,852件,全事故の24.9%)、死亡事故件数(68件,全死亡事故の25.8%)ともに最も多い年齢層になっているが、前年比では発生件数(-255件)は減少、死亡事故件数(+11件)は増加している。

「高齢者(65歳以上)」の発生件数は2,633件(全事故の11.2%)、死亡事故件数は44件(全死亡事故の16.7%)で、前年比では発生件数(+168件)は増加、死亡事故件数(-6件)は減少した。

(3) 月別発生状況(P36参照)

「12月」(2,231件)が最も多く、次いで「8月」(2,129件)、「11月」(2,025件)の順となっており、特に年末の時期に多い。前年比では「12月」(+121件)の増加が多く、「2月」(-181件)が大きく減少した。

死者数では「1月」が36人で最も多く、前年比(+19人)も増加、「12月」(-12人)が大きく減少した。

(4) 曜日別発生状況(P39参照)

「金曜日」(3,660件)が最も多く、「日曜日」(2,594件)が最も少ない。

他の曜日はほぼ同数となっている。前年比では「月曜日」(+64件)の増加が多く、「日曜日」(-166件)が大きく減少した。

死者数は「月曜日」、「水曜日」(各47人)が最も多く、前年比では「水曜日」(+16人)の増加が多い。

(5) 時間別発生状況(P41参照)

「8~9時」(2,195件)が最も多く、次いで「17~18時」(2,013件)の順となっている。前年比では「8~9時」(+117件)、「7~8時」(+102件)が増加し、「18~19時」(-134件)、「16~17時」(-96件)が減少した。

死者数では「19~20時」(24人)が最も多く、次いで「18~19時」(23人)の順となっている。前年比では「5~6時」(+10件)、「19~20時」(+9件)が大きく増加し、「23~24時」(-13件)、「1~2時」(-7件)が減少した。

(6) 路線別発生状況(P43参照)

「市町村道」(9,867件,全事故の42.0%)が最も多く、次いで「国道」(6,730件)、「県

道」(5,859件)の順となっている。

死者数では「県道」(100人,全死者の36.0%)が最も多く、次いで「国道」(87人)、「市町村道」(77人)の順となっている。

(7) 道路形状別発生状況 (P 52参照)

発生件数は「交差点」(9,894件,全事故の42.1%)が最も多く、次いで「直線」(8,894件)の順となっている。前年比では「直線」(-265件)が減少した。

死者数は「直線」(107人,全死者の38.5%)が最も多く、次いで「交差点」(105人)の順となっている。

(8) 第1当事者の車両別発生状況 (P 55参照)

「普通乗用自動車」が、発生件数14,199件(全事故の60.5%)、死亡事故件数(131件,全死亡事故の49.6%)ともに最も多い。前年比では「軽乗用自動車」(+112件)の増加が多く、「普通乗用自動車」(-294件)が大きく減少した。

(9) 第1当事者の事故類型別発生状況 (P 59参照)

「追突」(8,796件,全事故の37.5%)が最も多く、次いで「出合頭衝突」(6,348件)の順となっており、この2つで全事故の6割以上(64.5%)を占めている。前年比では「出合頭衝突」(+115件)の増加が多く、「追突」(-140件)が大きく減少した。

死者数では「出合頭衝突」(59人,全死者の21.2%)が最も多く、次いで「歩行者横断中」(58人)の順となっている。前年比では「出合頭衝突」(+14人)の増加が多い。

(10) 第1当事者の原因別発生状況 (P 65参照)

前方不注意や安全不確認等の「安全運転義務違反」(19,115件,全事故の81.4%)が最も多く、次いで「信号無視」(938件)、「一時不停止」(876件)の順となっている。

死亡事故件数では「前方不注意」(49件,全死亡事故の18.6%)が最も多く、次いで「最高速度違反」,「安全速度」(各36件)の順となっている。前年比では「安全速度」(+10件)、「最高速度」(+8件)の増加が多い。

(11) 警察署別・市町村別発生状況 (P 71~74参照)

警察署別では「水戸署」(3,477件)が最も多く、次いで「土浦署」(1,981件)、「つくば中央署」(1,620件)、死者数では「水戸署」,「鹿嶋署」(各19人)、次いで「稲敷署」,「土浦署」(各18人)の順となっている。

市町村別では「水戸市」(3,026件)、次いで「つくば市」(1,714件)、「土浦市」(1,525件)、死者数では「つくば市」(19人)、次いで「水戸市」,「筑西市」(各16人)の順に多い。

人口1,000人当たりの発生件数は、「谷和原村」(11.66件)、「水戸市」(11.53件)、「土浦市」(11.29件)の順に多い。

(12) 年齢状態別死傷者数 (P 95、98、101参照)

状態別では「四輪車運転中」が、死者数(94人,全死者の33.8%)、負傷者数(17,426人,全負傷者の57.2%)ともに最も多くなっている。

年齢別死者数では「高齢者(65歳以上)」が130人で最も多く、その状態別は「歩行中」(62人,構成率47.7%)、「自転車乗用中」(29人,構成率22.3%)、「四輪車運転中」(25

人)の順に多くなっている。

年齢別負傷者数では「20歳代」(6,640人)が最も多く、その状態別は「四輪車運転中」(4,475人,構成率67.4%)が約7割を占めている。

(13) シートベルト着用状況(P105参照)

四輪車乗車中の死者122人中、66人(構成率54.1%)がシートベルトを着用していなかった。このうち38人(構成率57.6%)は、シートベルトを着用していれば助かった可能性があった。

負傷程度別のシートベルト着用率は、負傷なし(98.5%),軽傷(92.4%),重傷(79.6%),死亡(45.9%)と、着用率の低下に伴い負傷程度も重くなっており、シートベルト着用が大きな効果を上げていることがわかる。

(14) 飲酒運転(原付以上、酒酔い運転を含む。)による交通事故(P110参照)

発生件数は450件(全事故の1.9%)、死亡事故件数は30件(全死亡事故の11.4%)、死者数は31人(全死者の11.2%)で、死者数の全国順位はワースト第7位である。

第1当事者の年齢層別死亡事故件数は、20歳代及び30歳代(各8件,構成率各26.7%)が最も多く、この2つの年齢層で5割以上(53.3%)を占める。

時間別の発生件数では、夕方から深夜にかけての時間帯「17~2時」に多いが、特に「21~23時」、「0~1時」の深夜時間帯に集中している。

(15) 無免許運転による交通事故(P113参照)

発生件数は188件(全事故の8.0%)、死亡事故件数は7件(全死亡事故の2.7%)で、前年比では発生件数(-8件)、死亡事故件数(-5件)とも減少した。発生件数は平成13年以降、5年間連続で減少している。

(16) 最高速度違反による交通事故(P115参照)

発生件数は63件(全事故の0.3%)で、全事故に占める割合は少ないが、死亡事故件数では36件(全死亡事故の13.6%)と死亡事故の大きな要因となっている。

(17) 子供(中学生以下)が関係した交通事故(P117、118参照)

発生件数は「幼・園児」450件、「小学生」853件、「中学生」541件で、前年比ではいずれも減少した。

死者数は「幼・園児」が4人、「小学生」が1人、「中学生」が2人で、前年比では「幼・園児」及び「小学生」が減少し、「中学生」は前年と同数であった。

状態別死傷者数では「幼・園児」、「小学生」は四輪車同乗中(構成率,幼・園児76.7%,小学生42.9%)が多く、「中学生」は自転車乗用中(構成率67.3%)が多い。原因別にみると、自転車乗用中では「安全不確認」(構成率25.6%)、歩行中では「飛び出し」(構成率34.5%)が多い。

(18) 高校生の交通事故(P122参照)

高校生が関係した事故件数は1,416件(全事故の6.0%)、死者数が5人(全死者の1.8%)で、前年比では発生件数(+21件)は増加、死者数(-8人)は減少した。

状態別死傷者数では、自転車運転中(構成率44.0%)、原付運転中(構成率29.9%)、

四輪車同乗中(構成率17.7%)の順に多くなっている。

死者数は、原付運転中が4人、自転車乗用中1人となっている。

(19) 青少年(16~24歳)の交通事故(P125参照)

青少年が関係した事故件数は8,126件(全事故の34.6%)、死者数が33人(全死者の11.9%)で、前年比では発生件数(-217件)、死者数(-1人)とも減少した。

青少年は平成5年まで死者数の最も多い年齢層であったが、平成6年からは高齢者と入れ替わり、以後減少傾向にある。

青少年運転者(原付以上)による事故件数は4,546件(全事故の19.4%)で、平成12年以降5年連続で減少している。

死亡事故件数は53件(全死亡事故の20.1%)で、前年比(+10件)は増加した。死亡事故の原因別では、最高速度(構成率26.4%)、安全速度(構成率15.3%)、右側通行(構成率11.3%)が多く、事故類型別では歩行者横断中(構成率30.2%)、出合頭衝突(構成率26.4%)が多い。

(20) 高齢者(65歳以上)の交通事故(P129参照)

高齢者が関係した事故件数は4,927件(前年比+167件)で、過去最高を更新し増加が続いている。死者数は130人(全死者の46.8%)で前年より大きく増加(+24人)し、引き続き「死者数が最も多い年齢層」となっている。

状態別死者数は、歩行中(62人,構成率47.7%)、自転車乗用中(29人,構成率22.3%)が多く、両方で7割(70.0%)を占めている。

高齢運転者(原付以上)による事故件数は2,538件(前年比+186件)と増加し、過去最高を更新している。死亡事故件数は42件(全死亡事故の15.9%)で、前年より7件減少した。

(21) 男女別運転者による交通事故(P132参照)

発生件数は男性が約6割(構成率64.6%)、女性が約4割(構成率35.4%)を占めている。発生件数の前年比では、男性、女性ともに僅かに減少、死亡事故件数は男性が大きく増加(+10件)した。

発生件数を平成8年と比較すると、男性の微減に対し、女性は約1.2倍増加している。

死亡事故を起こした年齢層別では、男性、女性ともに「20歳代」が最も多く、事故類型別では、男性が「出合頭衝突」、女性は「歩行者横断中」が多くなっている。

(22) 初心運転者による交通事故(P134参照)

発生件数は1,332件(全事故の5.7%)、死亡事故件数は12件(全死亡事故の4.5%)で、前年比では発生件数(-67件)は減少、死亡事故件数(+6件)は増加した。

年齢層別では「20歳未満」が最も多く、発生件数が933件(構成率70.0%)、死亡事故件数が11件(構成率91.7%)となっている。

時間別では、朝「7~9時」と夕方から夜にかけて「17~20時」の時間帯に多くなっているが、死亡事故では夕方から深夜「18~24時」に集中(構成率58.3%)している。

(23) 県外者による交通事故(P135参照)

発生件数は2,794件(全事故の10.6%)、死亡事故件数は27件(全死亡事故の10.2%)で、前年比では発生件数(-20件)、死亡事故件数(-10件)とも減少した。

路線別では発生件数、死亡事故件数とも「国道」が最も多く、都道府県別では隣接する「千葉」、「栃木」、「埼玉」居住者が多くなっている。

(24) 事業用自動車による交通事故(P 136参照)

発生件数は1,177件(全事故の5.0%)、死亡事故件数は28件(全死亡事故の10.6%)で、前年比では発生件数(+40件)、死亡事故件数(+2件)とも増加した。

車種別では「貨物車」が最も多く、発生件数(1,000件、構成率85.0%)、死亡事故件数(28件、構成率100%)とも高率となっている。

路線別では「国道」(構成率49.0%)、「県道」(構成率25.5%)の順に多く、年齢層別では「30歳代」が最も多くなっている。

(25) ダンプカーによる交通事故(P 137参照)

発生件数は138件(全事故の0.6%)、死亡事故件数は4件(全死亡事故の1.5%)で、前年比では発生件数(+10件)、死亡事故件数(+3件)とも増加した。

事故類型別では「追突」(70件、構成率50.7%)が最も多く、次いで「出合頭衝突」(23件、構成率16.7%)の順になっており、時間帯別では「9~10時」、「11~12時」が多く、朝から午前中の時間帯「7~12時」が約5割(48.0%)を占めている。

(26) 二輪車の交通事故(P 138~139参照)

二輪車が関係した事故件数は2,600件(全事故の11.1%)、死者数が26人(全死者の9.4%)で、発生件数(-86件)、死者数(-11人)とも減少した。

このうち原付の発生件数は1,779件(全事故の7.6%)、死者数は16人(全死者の5.8%)で、前年比では発生件数(-93件)、死者数(-3人)とも減少した。

二輪車の死者26人中、ヘルメット着用は23人(構成率88.5%)であった。

二輪車による事故件数は918件(全事故の3.9%)、死亡事故件数は12件(全死亡事故の4.5%)で、前年比では発生件数(-68件)、死亡事故件数(-8件)とも減少した。

事故を起こした年齢層別は「20歳未満」が最も多く、事故類型別では「出合頭衝突」、「転倒」、事故原因別では「前方不注意」、「運転操作不適」の順に多くなっている。

(27) 自転車の交通事故(P 140~141参照)

自転車に関係した事故件数は3,343件(全事故の14.2%)、死者数は43人(全死者の15.5%)で、前年比では発生件数(+90件)、死者数(+14人)とも増加した。

死傷者数の事故類型別は「出合頭衝突」、原因別は「安全不確認」が最も多くなっている。

(28) 歩行者の交通事故(P 143~144参照)

歩行者が関係した事故件数は1,533件(全事故の6.5%)、死者数は87人(全死者の31.3%)で、前年比では発生件数が減少(-85件)し、死者数は増加(+13人)した。

死傷者数の時間帯別では「16~20時」が3割以上(33.7%)を占めており、年齢層別では「高齢者」(30.9%)、「中学生以下の子供」(23.7%)の順に多く、事故類型別では「道路横断中」、原因別では「飛び出し」、「横断歩道外横断」が多い。

(29) 外国人の交通事故 (P 146参照)

外国人が関係した事故件数は561件(全事故の2.4%)、死者数が4人(全死者の1.4%)で、前年比では発生件数は減少(-15件)し、死者数は前年と同数であった。

外国人の関係した事故を平成8年と比較すると、発生件数が約2.0倍、負傷者数が約2.3倍といずれも倍増しており、増加傾向が続いている。

外国人による事故件数は286件(全事故の1.2%)、死亡事故件数が5件(全死亡事故の1.9%)で、前年比では発生件数が減少(-26件)し、死亡事故は増加(+4件)した。

国籍別発生件数では「ブラジル」が最も多く、次いで「朝鮮・韓国」、「イラン」、「中国・台湾」の順になっている。

(30) 踏切事故 (P 148参照)

発生件数は5件、死亡事故の発生はなかった。前年比では発生件数(-1件)、死者数(-3人)とも減少した。

(31) 物損事故 (P 149参照)

発生件数は70,655件(前年比+81件)で、平成8年と対比して約1.2倍と、過去最高を更新した。